

商工会議所LOBO（早期景気観測）

-2020年8月調査結果-

調査概要

- 調査期間 2020年8月11日～8月31日
- 調査対象 200社
- 回答企業 129社
- 回収率 64.5%

※DI値（景気判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

なお、従業員の項目については、DI値ゼロを基準として、プラス値は人員不足感を表し、マイナス値は人員過剰感を表している。

DI値 = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

業況・採算：(好転) - (悪化) / 売上：(増加) - (減少) / 仕入単価：(下落) - (上昇)

販売単価：(上昇) - (下落) / 従業員：(不足) - (過剰)

旭川市概況

※全産業の8月の状況を見ると業況DIは、前月より6.2ポイント改善の▲43.4となった。

2017年9月以来36ヶ月連続でマイナス水準を推移している。

※向こう3か月の全産業における、先行き見通し業況DIは▲46.5、当月と比べ3.1ポイントの悪化が見込まれる。

旭川市全産業 DI 値（前年同月比）の推移

	2020年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 2020年 9月～11月
業況	▲47.6	▲50.7	▲59.9	▲50.0	▲49.6	▲43.4	▲46.5
売上	▲50.0	▲53.7	▲55.9	▲55.8	▲48.1	▲49.6	▲48.1
採算	▲43.6	▲47.0	▲60.7	▲48.6	▲46.5	▲38.7	▲41.1
仕入単価	▲12.0	▲18.6	▲11.9	▲17.6	▲20.9	▲22.5	▲24.0
販売単価	▲12.1	▲14.2	▲16.5	▲12.5	▲11.6	▲13.2	▲12.4
従業員	19.3	13.5	15.0	10.3	13.2	16.3	17.8
資金繰り	▲21.8	▲29.8	▲37.1	▲25.7	▲25.6	▲20.2	▲25.5

旭川市産業別業況DI値（前年同月比）の推移

	2020年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 2020年 9月～11月
建設	▲28.6	▲10.3	▲32.2	▲27.6	▲21.4	▲30.0	▲30.0
製造	▲34.5	▲39.3	▲58.6	▲59.4	▲64.5	▲50.0	▲56.3
卸売	▲42.3	▲53.1	▲46.5	▲27.3	▲22.2	▲18.5	▲25.9
小売	▲71.4	▲77.3	▲85.0	▲70.0	▲55.0	▲42.1	▲42.1
サービス	▲75.0	▲87.0	▲90.9	▲81.9	▲91.3	▲85.7	▲85.7

今月のトピックス（業界の声・経営上の問題点）

建設業	<ul style="list-style-type: none"> ・現状受注状況のトレンドは変化ないが、今後民間工事（特に個人住宅）需要の減退が予測される。受注に見合う人員確保が引き続きの課題。（総合工事） ・現時点でのコロナの影響は、本社及び各現場のコロナ感染予防対策費（社員へのマスク・消毒液配布、パテーション設置等）程度の出費。（総合工事） ・コロナウイルスによる世の中の閉塞感及び景気の低迷による受注減がリアルになりつつある。（設備その他） ・新型コロナウイルス感染拡大による影響で年初より全体な売上ダウン。現在は昨年並みの景気感に戻ってきている。（建築）
製造業	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスが全国的に拡大している影響で秋の物産展、イベントの中止が相次いでいる。取引先の発注量が例年の2割程と少なく打撃が大きい。（食料品） ・需要減少による売上の減少が一番の課題。他事業への展開も検討しなければならない。（印刷・出版） ・受注は納品先の業界により大きく変動、農業土木関連品は順調、その他は大きく減額になっている。この傾向が1年以上は続くと思われる。（金属窯業他） ・引き続き全国ショップは完全予約制にて対応し、密を避ける取り組みをしている。受注状況はわずかではあるが回復の兆し。（家具木材）
卸売業	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスが全国的に拡大している影響で秋の物産展、イベントの中止が相次いでいる。取引先の発注量が例年の2割程と少なく打撃が大きい。（食料品） ・需要減少による売上の減少が一番の課題。他事業への展開も検討しなければならない。（印刷・出版） ・受注は納品先の業界により大きく変動、農業土木関連品は順調、その他は大きく減額になっている。この傾向が1年以上は続くと思われる。（金属窯業他） ・引き続き全国ショップは完全予約制にて対応し、密を避ける取り組みをしている。受注状況はわずかではあるが回復の兆し。（家具木材）
小売業	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナ感染拡大自粛により、特に空港・JRでの外販の落ち込みで売上減少。（食料品） ・新型コロナウイルスの影響で来店される顧客が少なく厳しい。売上を確保するためにサマーセール期間を8月末日まで延長しOFF率を40%～50%で行っている。（衣服見回品） ・春先と比較すると地元客を主体に若干需要が回復してきたが、本州からの移動自粛やイベントの中止により、まだ本来の観光客や帰省客の来店については動きが鈍い。今後の販売環境の回復についても、まだ不透明感が強い。（その他）
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> ・本州との航空便も減便のままで消費者の来道意欲も高まらない。（ホテル・旅館） ・相変わらずイトイン客の減少をテイクアウト客の増加でカバー。野菜の仕入値が高騰していて採算が悪化している。（飲食） ・観光関連含め人の移動の増加は歓迎したいところであるが、感染拡大の懸念は払拭できておらず不安は大きい。売上60%台が続いており、資金繰りにも苦労が大きい。（運送） ・先行きの見通しがまったくつかない。（整備業） ・コロナ禍の先行きが見通せないことから来年度以降、公共工事予算の大幅な減少が予想される。（その他）

旭川市の産業別概況

産業	概況
建設業	<p>売上 DI5.0 ポイント悪化、採算 DI9.0 ポイント悪化、仕入単価 DI5.7 ポイント改善、販売単価 DI6.6 ポイント悪化、資金 DI4.0 ポイント改善、従業員 DI11.0 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 8.6 ポイント悪化となった。業種別では、建築業 15 ポイント改善、総合工事 7 ポイント、設備・その他 17 ポイント悪化となった。新型コロナウイルスの影響で見学会の集客数が減少しているなど、新規契約の減少が懸念されるとの声も寄せられている。</p>
製造業	<p>売上 DI8.4 ポイント改善、採算 DI21.0 ポイント改善、仕入単価 DI5.8 ポイント悪化、販売単価 DI2.7 ポイント悪化、資金 DI9.1 ポイント悪化、従業員 DI0.2 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 14.5 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、食料品横ばい、印刷・出版 13 ポイント、家具・木材 33 ポイント、金属窯業他 9 ポイント改善となった。売上高の減少と販売単価の指値もあって採算は悪化傾向にある。先行きは全く不透明な状況との声も寄せられている。</p>
卸売業	<p>売上 DI11.1 ポイント悪化、採算 DI11.1 ポイント改善、仕入単価 DI11.1 ポイント悪化、販売単価 DI7.4 ポイント悪化、資金 DI7.4 ポイント改善、従業員 DI 横ばい。総じて業況 DI は 3.7 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、繊維・衣服等 45 ポイント、食料品 20 ポイント悪化、機械鋼材 20 ポイント、その他 50 ポイント改善となった。前年度と同等の業況との声も寄せられている。</p>
小売業	<p>売上 DI2.9 ポイント悪化、採算 DI13.1 ポイント改善、仕入単価 DI30.5 ポイント改善、販売単価 DI4.2 ポイント改善、資金 DI9.2 ポイント改善、従業員 DI16.1 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 12.9 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、衣料品横ばい、食料品 25 ポイント、その他 7 ポイント、自動車 2 ポイント改善となった。新型コロナウイルス感染拡大による影響で悪化との声も寄せられている。</p>
サービス業	<p>売上 DI1.9 ポイント悪化、採算 DI3.0 ポイント悪化、仕入単価 DI20.7 ポイント悪化、販売単価 DI6.7 ポイント改善、資金 DI16.4 ポイント改善、従業員 DI12.7 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 5.6 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、理美容・クリーニング、ホテル・旅館、その他、飲食、運送横ばい、整備業 50 ポイント改善となった。コロナによる利用者減から依然回復なし。特に高齢者の利用者が大幅減、都市間バス利用者は前年比の 65%との声も寄せられている。</p>